

ピーマン (ナス科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		植えつけ				収穫					

品 種

- 〔大型ピーマン〕 エース、ニューエース
- 〔中型ピーマン〕 京みどり、春千ピーマン
- 〔長形ピーマン〕 ししとう、伏見甘長

また、大型ピーマンには未熟果は濃緑で、熟果になると赤色になるワンダーベル、未熟果は濃緑で熟果が美しい濃黄になるゴールデンベルという珍しい品種もあります。いずれも未熟果と熟果の両方で利用できます。

栽 培 ポ イ ン ト

ピーマンは高温性ですから、植えつけを急がず、霜のなくなった5月上～中旬に、よい大苗を購入して植えます。

また、土が乾くと、落花が多くなりますから、水もちのよい有機質の多い土壌の畑を選びます。

ナスと同じように多肥を好みます。元肥えは畝の中央に溝を施し、植えつけ後20～30日ごとに、化成肥料を追肥します。

わき枝は全部伸ばさずに、1番なりのついた枝（主枝）とその下から出る勢いのよい側枝を2本を伸ばし、3本仕立てにします。

泥はねによる病気の発生と夏の乾燥防止のために、梅雨入り前と梅雨明けに敷きわらをします。

7月下旬に株元から50～60cmの高さで切ると、秋によいピーマンがとれます。

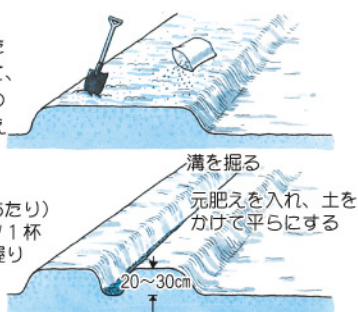
栄 養

カロチン、ビタミンCが多い、黄緑野菜の代表。

1 畑の準備

畑には、前もって1㎡あたり2握りの苦土石灰をまいて、よく耕しておく。植えつけの10日前に、畝を作る。元肥えは畝の中央の溝に施す。

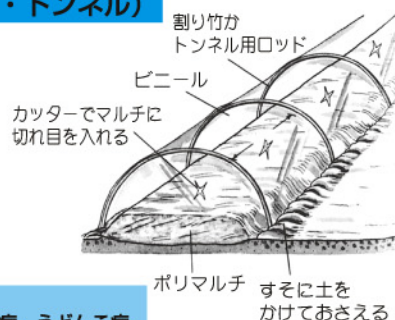
元肥え（1㎡あたり）
（堆肥 バケツ1杯
鶏ふん 13握り）



2 保温（マルチ・トンネル）

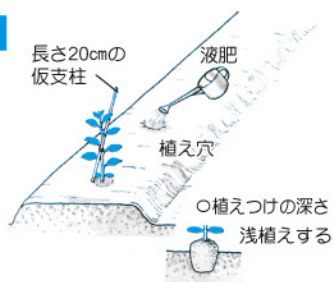
植えつけの1～2日前に、畝にポリマルチをして、さらにビニールトンネルをかけ、地温を高めておく。トンネルは、5月下旬からすそを開けて換気し、6月初旬にはずす。

主な病害虫
◆病気 ウイルス病、疫病、うどんこ病、炭疽病、青枯れ病
◆害虫 ハダニ



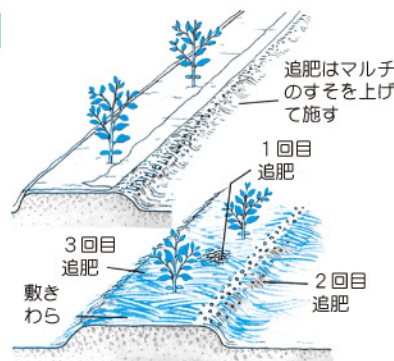
3 苗の植えつけ

植えつけ前日に中央に株間40cmで植え穴を作り、液肥を施しておき、無風の日の午前中に苗を植え、仮支柱を立てる。当日は水やりをしない。



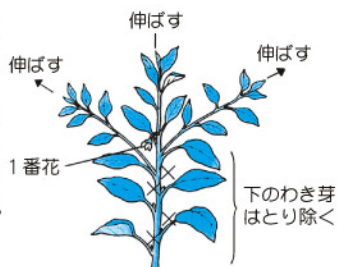
4 敷わらと追肥

植えつけ後は、20～30日ごとに化成肥料1握り（1㎡あたり）を畝の肩に追肥する。ポリマルチは梅雨明けにはずし、敷きわらをする。ポリマルチをしない場合は、株間、畝の肩に交互に追肥し、梅雨入り前と梅雨明けに敷きわらをする。



5 整 枝

主枝に1番花がついたあと、その下から出る勢いのよい枝2本を残し、それ以下のわき芽はつみとって、主枝とわき枝2本の、3本仕立てとする。



6 切り返し剪定

秋によいピーマンをとりたい場合は、7月下旬に枝を切りつめ、肥料を施し、敷きわらを厚くしておく。

